

風水害時における避難場所について

災害時には、指定緊急避難場所以外に、地区センター、地域ケアプラザ等の公共施設、自治会町内会館を避難場所として開設する場合がありますので、避難の際は、必ず、市・区のホームページやテレビ(データ放送)等で開設されている避難場所をご確認ください。

2か所以上の避難場所へ避難できるよう、自分自身であらかじめ複数の避難経路を確認しておきましょう。

すでに浸水が始まっている場合などには無理に避難場所へ移動せず、浸水していない近くの高いところに避難してください。

なお、中区では浸水時の避難場所として、下記に示した避難場所を災害の状況により開設します。

No.	避難場所	所在地	位置	No.	避難場所	所在地	位置
1	上台集会所	本郷町2-50	D-4	7	横浜吉田中学校	羽衣町3-84	B-3
2	麦田清風荘	麦田町1-26-1	C-4	8	仲尾台中学校	仲尾台23	C-5
3	大島小学校	本郷町1-251	D-5	9	本郷南小学校	本郷元町44-1	E-6
4	山元小学校	山元町3-152	B-5	10	本町小学校	花咲町3-86	B-2
5	みなと総合高校	山下町231	C-3				

中区高潮ハザードマップ

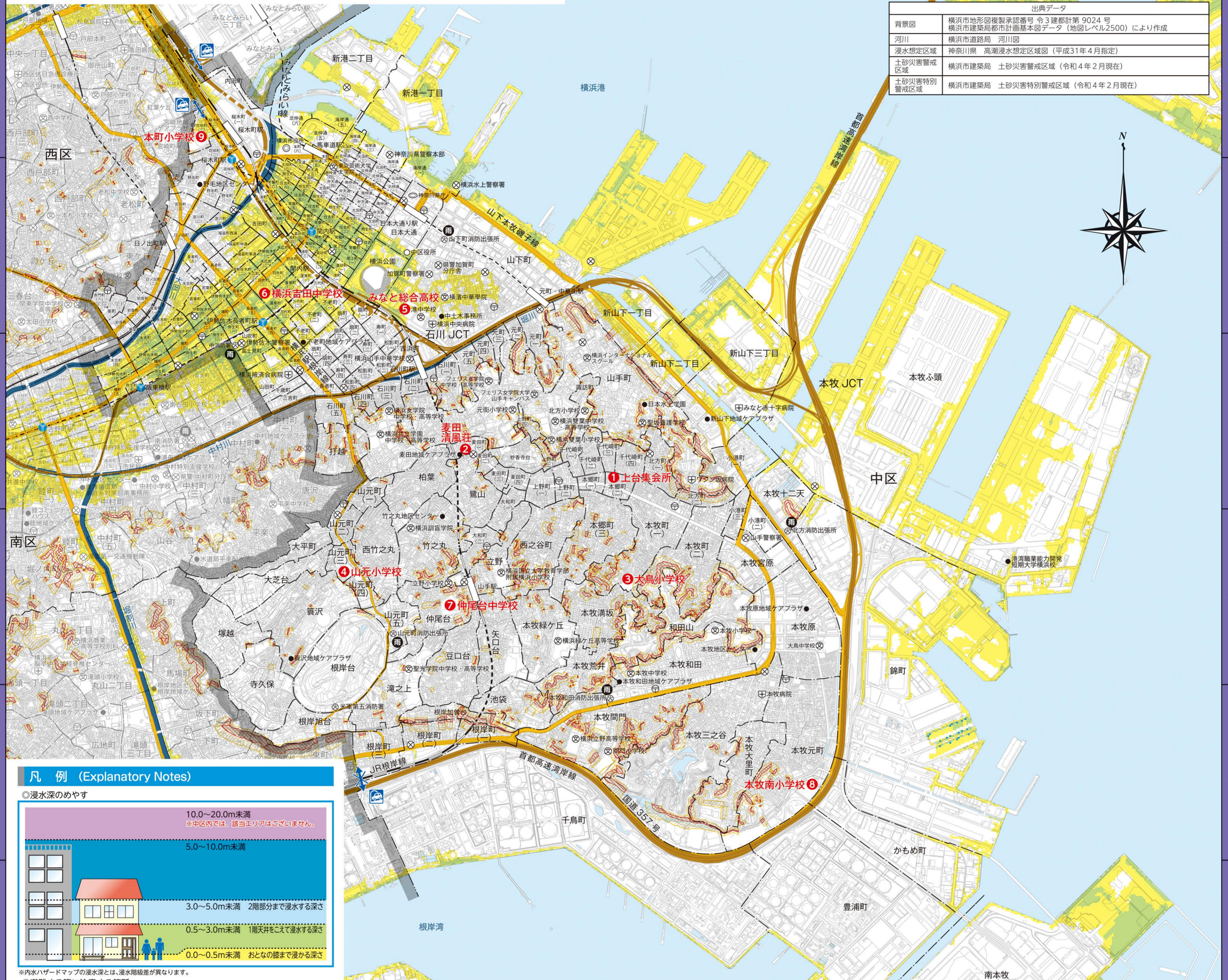
高潮浸水想定区域(想定最大規模※)

この高潮ハザードマップは、高潮による氾濫が発生した場合に、浸水が想定される区域の皆さんに速やかに避難していただくために作成したものです。

※想定最大規模とは「想定し得る最大規模の高潮」による氾濫を前提として予測したものです。

出典データ

背景図	横浜市地形図複製承認番号 命3建都計第9024号 横浜市建設局都市計画基本図データ(地図レベル2500)により作成
河川	横浜市道路局 河川図
浸水想定区域	神奈川県 高潮浸水想定区域図(平成31年4月指定)
土砂災害警戒区域	横浜市建築局 土砂災害警戒区域(令和4年2月現在)
土砂災害特別警戒区域	横浜市建築局 土砂災害特別警戒区域(令和4年2月現在)



凡例 (Explanatory Notes)

●浸水深のめやす

10.0~20.0m未満	※中区内では、該当エリアはございません。
5.0~10.0m未満	
3.0~5.0m未満	2階部分まで浸水する深さ
0.5~3.0m未満	1階天井をこえて浸水する深さ
0.0~0.5m未満	おとなの膝まで浸かる深さ

※内水ハザードマップの浸水深とは、浸水階級が異なります。

●避難する際に注意する箇所

アンダーパス	大雨時に雨水が急激に集中し、冠水して安全な通行に支障をきたすおそれがある場所(進入すると危険なため、浸水時は控えてください。)
土砂災害警戒区域	急傾斜地の崩壊等が発生した場合に、住民等の生命又は身体に危害が生ずるおそれがあると認められる区域であり、危険の周知、警戒避難体制の整備が行われます。
土砂災害特別警戒区域	急傾斜地の崩壊等が発生した場合に、損壊が生じ住民等の生命又は身体に著しい危害が生ずるおそれがあると認められる区域で、特定の開発行為に対する許可制、建築物の構造規制等が行われます。

都県界	高速道路・有料道路
市区界	主要道路
町丁目界	避難場所
JR線・駅	雨量観測所
私鉄線・駅	
市営地下鉄線・駅	

高潮浸水想定区域(想定最大規模)はどのように決めたの?

この高潮浸水想定区域の範囲や深さは、国内観測史上、最も大きな台風が、沿岸に最悪の被害を与える経路で襲来した場合をシミュレーションにより予測したものです。

【想定する台風】
・中心気圧: 室戸台風(910hPa)・暴風半径: 伊勢湾台風(75km)・移動速度: 伊勢湾台風(73km/h)

なお、この高潮浸水想定区域は、下水道等からの浸水、水路の氾濫等を考慮してません。したがって着色されていない区域でも浸水が発生する場合は、実際の浸水深と異なる場合があります。

※神奈川県ホームページ
(<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/jy2/takashio/tokyo-bay.html>)

3 高潮の発生について

高潮とは

台風や発達した低気圧が通過する際、海面(潮位)が大きく上昇することがあり、これを「高潮」といいます。

高潮は、主に「気圧低下による吸い上げ効果」と「風による吹き寄せ効果」が原因となって起こります。また、大潮と高潮が重なると高潮水位はいっそう上昇し、大きな災害が発生しやすくなります。

① 気圧低下による吸い上げ効果

台風や低気圧の中心では気圧が周辺より低いため、気圧の高い周辺の空気は海水を押し下げ、中心付近の空気が海水を吸い上げるように作用した結果、海面が上昇します。

気圧が1ヘクトパスカル(hPa)下がると、潮位は約1センチメートル上昇すると言われています。

例えば、それまで1000ヘクトパスカルだったところへ中心気圧950ヘクトパスカルの台風が来れば、台風の中心付近では海面は約50センチメートル高くなり、そのまわりでも気圧に応じて海面は高くなります。

図-1 吸い上げ効果
国土交通省「高潮発生メカニズム」を元に作成
(https://www.mlit.go.jp/river/pamphlet_jirei/kaigan/kaigandukuri/takashio/1mecha/01-2.htm)

② 風による吹き寄せ効果

台風や低気圧に伴う強い風が沖から海岸に向かって吹くと、海水は海岸に吹き寄せられ、海岸付近の海面が上昇します。

この効果による潮位の上昇は風速の2乗に比例し、風速が2倍になれば海面は4倍になります。また、風が吹いてくる方向に開いた湾の場合、地形が海面上昇を助長させるように動き、特に潮位が高くなります。

図-2 吹き寄せ効果
国土交通省「高潮発生メカニズム」を元に作成
(https://www.mlit.go.jp/river/pamphlet_jirei/kaigan/kaigandukuri/takashio/1mecha/01-2.htm)

想定条件
中心気圧 910hPa、暴風半径 75km、移動速度 73km/hの台風

避難情報がでたら

～避難情報が発令されていなくても、身の危険を感じる場合は、速やかに避難を開始してください～

警戒レベル	発表表示	とるべき行動	避難情報(横浜市)
警戒レベル5	緊急安全確保	【命の危険 直ちに安全確保!】 ●災害が発生・切迫しており、命を守るための最善の行動をとる。	緊急安全確保
警戒レベル4	避難指示	【危険な場所から全員避難】 ●直ちに身の安全を確保できる場所へ避難する。 【1】情報の入手方法と日頃から備えの「避難の考え方」も読みください。 ●避難場所までの移動が危険と思われる場合は、近くの安全な場所や、自宅内のより安全な場所に避難する。 天候や水位の急変時には、高齢者等避難を必ず避難指示を発令することがあります。	避難指示
警戒レベル3	高齢者等避難	【危険な場所から高齢者等は避難】 ●避難に時間を要する人(高齢の方、障害のある方、乳幼児等)とその支援者は、安全な場所へ避難を開始する。 ●その他の人は、家族などと連絡、持ち出し品の用意など、避難の準備を開始するとともに、危険だと感じたら早めに避難する。	高齢者等避難
警戒レベル2	-	【自らの避難行動の確認】 ●避難に備え、ハザードマップ等により自らの避難行動を確認する。 ●避難情報の把握と、避難手段の確認をする。	-
警戒レベル1	-	【災害への心構えを高める】 ●防災気象情報等の最新情報に注意する。	-